

文禄・慶長の役（壬辰・丁酉倭乱）は、16世紀末豊臣秀吉によっておこされた朝鮮半島、中国大陸への進出をめざした侵略戦争です。戦いは前後7年にわたり、戦禍は朝鮮半島全土に及びました。この戦争の出兵基地となつたのが、肥前名護屋城でした。戦いには全国の主だった諸大名のほとんどが参集し、朝鮮半島に近く天然の良港をもつこの地に、極めて短期間のうちに一大都市が誕生



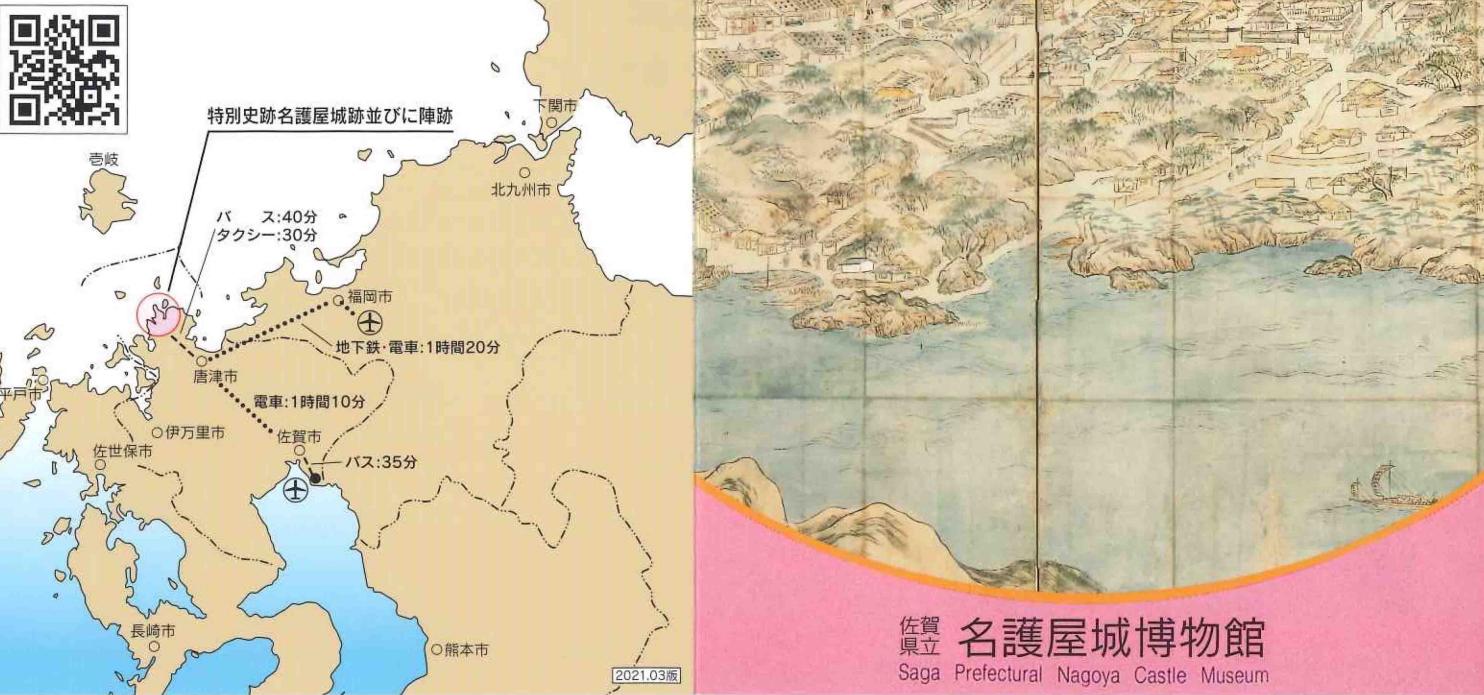
しました。豊臣秀吉は名護屋城を、全国から参集した大名は名護屋城の周囲約3kmの圏内に約140もの陣屋を築きました。それらは鎮西町を中心に呼子町、玄海町まで広がっており、今でもその半数に石垣や土塁等が残っています。このように名護屋城や陣屋の跡は、歴史的重要性に加え、年代が確実で遺跡の保存状態もよいため、国の特別史跡に指定されています。

特別史跡名護屋城跡並びに陣跡は広大な遺跡群であるため、佐賀県教育委員会と地元の3町が協力して、昭和51年（1976）から「名護屋城跡並びに陣跡保存整備事業」を実施しています。この事業では、遺跡の保存・活用のため特別史跡の追加指定、公有化、発掘調査、石垣修理や園路整備、説明板設置等の環境整備を行っており、これまでに名護屋城跡の他、豊臣秀保陣跡、堀秀治陣跡、加藤嘉明陣跡、木下延俊陣跡の整備をおこなっています。

■交 通 昭和バス唐津バスセンター（大手口）発
「名護屋城博物館方面行」で「名護屋城博物館入口」停留所下車、徒歩5分

■問合せ ☎ 847-0401

佐賀県唐津市鎮西町名護屋 1931 番 3
佐賀県立名護屋城博物館
TEL (0955)82-4905
FAX (0955)82-5664
U R L <http://saga-museum.jp/nagoya/>
E-mail nagoyajouhakubutsukan@pref.saga.lg.jp



名護屋城跡と城下町

この特別史跡の中核をなす名護屋城跡は、近世初頭の特徴をよく残す重要な城跡で、総面積約17万m²は、当時としては大坂城に次ぐ規模でした。天正19年（1591）秋に始まった工事は、西国大名の分担によりわずか5ヶ月足らずの翌年の春には主要部が完成したといわれています。

城の構えは、中央最上段に本丸を置き、中段にはそれを取り囲むように二ノ丸、三ノ丸、遊撃丸、東出丸、弾正丸、水手曲輪があり、下段に山里丸、台所丸を配置しています。門は大手口の他5箇所あり、さらに北側には鰐鉢池と呼ぶ堀があります。

鰐鉢池より先、海までは、最盛期人口が20万人を超えていたといわれる城下町が広がっていました。町割りは今でもその当時の姿をとどめており、「茜屋町」など当時の町の名前が現在も生きています。

